

## 第2章 花き物流システム高度化事業

これまでに一般社団法人日本花き卸売市場協会では花きの物流における様々な課題について調査検討を行ってきた（花き物流システム高度化事業）。2015年度（平成27年度）は花きの物流における課題の洗い出しを行い、以下の4つの課題を挙げている。

- ① 主要卸売市場間における幹線輸送の検討（横持輸送が実現できないか）
- ② サプライチェーン上の時間配分の見直し（セリの開催日時を見直せないか）
- ③ 日持ち性保持の問題（一貫したコールドチェーンをどのように確立するか）
- ④ 流通容器等の規格の問題（台車、段ボールやパレットのサイズを標準化できないか）

2016年（平成28年度）には切花の流通容器の標準化について調査、検討を行い標準規格のダンボールを定め提案した。この標準規格が「花き流通標準化ガイドライン」における横箱乾式容器の標準規格として推奨されることとなった。2017年度（平成29年度）は花きの物流における出荷容器、パレットの標準化およびコスト試算について調査、検討を行い、荷役負担の削減メリットや積載率低下などの課題について報告している。また、湿式縦箱、パレット台車について推奨モデルを検討している。2018年度（平成30年度）は鉢物輸送における台車の標準化について調査、検討を行った。この事業において試作した台車が「花き流通標準化ガイドライン」におけるハーフ台車の標準規格として推奨されている。また、実証実験では出荷地から小売店までを台車で輸送すること、RFIDチップおよびRFIDラベルを使用するの検品の効率化、産地拠点における共同出荷輸送およびソースマーキングの効果について検証を行い作業時間の削減に資することを報告している。2019年度（平成31年度）はソースマーキングについて出荷者、市場が利用できるクラウド情報管理システムを構築し流通全体の効率化について調査、検討を行った。実験では、出荷者によるソースマーキングにより流通全体の検品作業時間が減少することを報告している。